

平成27年

季刊

新春号

Vol.52

亞東



協会役員 沈斯淳代表を表敬訪問



一般社団法人亞東親善協会

The East Asian Friendship Association

一般社団法人亜東親善協会の概要

名称 一般社団法人亜東親善協会

(英名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら發起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一二月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任されました。

二〇一三年二月、安倍会長の意を受け、会長代行・大江康弘参議院議員が会長を引き継がれ就任されました。現在、領土問題等の紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴う水・エネルギー環境問題なども山積しております。

アジアの繁栄と平和に貢献するために、本協会員一同、役員陣容を強化し、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けております。

一般社団法人亜東親善協会・概要・変遷	二頁
目次・協会役員名簿	三頁
新時代に入った日台関係を見据えて	四頁
沈斯淳・駐日代表 二〇一五年元旦祝辞	五頁
陳水扁前総統を獄舎に訪ねて	六頁
台湾留学生と日本の	七頁
国会議員らとの懇談会を開催	九頁
平成二十六年研修会並びに懇親の集い	一〇頁
平成二十六年台湾訪問の旅に参加して	一二頁
平成二十七年謹賀新年名刺広告	一二頁

平成26年5月12日現在

一般社団法人亜東親善協会役員名簿

名誉会長 (理事以外)	1名	玉澤 徳一郎						
参与 (理事以外)	1名	橋本 靖男						
会長 (代表理事)	1名	大江 康弘						
副会長 (理事)	4名	張 建国	張 碧華					
		山本 順三	千葉 健司					
専務理事	1名	崎谷 秀彦						
業務執行理事	張 建国	(副会長兼務)						
業務執行理事	赤松 則宏	(副会長兼務)						
業務執行理事	千葉 健司	(副会長兼務)						
業務執行理事	藤山 雅康							
理事	19名							
小松 省二	仲谷 俊郎	新井 秀子	南部 晴彦	益山 茂	松永理恵子			
多 忠和	三浦 信行	並木 正芳	伊野 雅晴	柴田 徳文	山口 裕志			
森 康郎	池本 好伸	笹岡 恭亮	矢野 哲朗	鶴保 庸介	永島 剛士			
小山 博史								
監事	2名	李 ハロルド	鈴木 慶一					
事務局		崎谷 秀彦						
		李 孔曉						

一般社団法人 亜東親善協会

新時代に入った日台関係を見据えて

会長 大江 康弘

新年 明けましておめでとうございます。
どうぞございます。

二〇一五年、輝かしい新春を皆様お健やかに迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

皆様方には、新時代に移行しつつある日本・中華民

国両国の友好親善に格別のご尽力と、また、私共の協会に對しまして多大なご理解とご協力を戴いておりますことに、心より御礼申し上げる次第です。

さて本当に嬉しいことに、昨年、両国間の人的往来者数は四〇〇万人の万台を突破するに至りました。

そして、この人的往来は、単にその数が増えただけではなく、その質も大きく変化して来ています。

これを後押ししておりますのが、昨年十一月二十日に締結された「公益財団法人交流協会と亜東協会との間の日台双方の観光事業発展に関する協力強化についての覚書」（略称「日台観光事業協力覚書」）です。

また、遡ること二〇一〇年四月二二日、馮（前）駐日代表の時に、ニューヨーク・パリに次いで世界で三番目に日本で

開設された「台北文化センター」ですが、この新施設が今年二〇一五年、虎の門にオープンするそうです。

そもそも、この「台北文化センター」は、その設立時は、「国立故宫博物院」の収蔵文物の日本展示業務が最重要業務でありました。しかし現在は、日台両国の文化芸術（関係者）の交流を促進するのみならず、その活動領域を経済や環境保護にまで広げて行っています。

その、昨年開催された「台北国立故宫博物院―神品至宝」展では、東京で四十万人、九州では二五万人を上回る多数の来場者があり成功裏に終わりました。

更には、「翠玉白菜」の展示では、最長約三時間待ちの列までなつたと聞いて、長時間お待ちになられた方々には本当に申し訳なく思いつつも、日台の「熱い交流」に本当に喜ばしく感じました。

そして、更なる日台両国間の文化交流の「深化」の為、来年二〇一六年には、東京国立博物館・九州国立博物館の文物が台湾で展示予定です。又、来年一二月に開館予定の「故宫南院」（嘉義県）でも、日本の国宝等々が展示予定です。

民間レベルでも、台湾から十年以上のリクエストがあった宝塚歌劇団の台湾公演は、昨年チケット完売でしたし、今年も八月に二度目の台湾公演が予定もされています。

さて、両国間の長年の懸案であった「日台民間漁業取決め」やその適用水域における操業ルールにも、昨年合意に至りま

した。

また、両国間で調印された「金融監督管理協力覚書」により、東京スター銀行がCTBS（中国信託商業銀行）グループの一員にもなりました。

このように、今後の日台両国間は、文化の「深化」のみならず、経済の「深化」にも手を携える時代になって来ていると思います。

その為には、「経済連携協定」（EPA）や「二重課税回避協定」（DTA）、更には「環太平洋パートナーシップ協定」（TPP）や「東アジア地域包括的経済連携」（RCEP）を日台両国間でしっかりとめ、或は連携や相互にサポートし合う、云わば「兄弟的關係」に移行する時であるとさえ思う毎日です。

これからも、私は自らの信念である「日本と中華民國の絆の強化こそ、まず、第一義」そして「外交の基本は民間外交にある」との想いを合言葉に、日台間の最も古く伝統のある一般社団法人亜東親善協会の会長として、より良い日台間の関係構築の為に、全力を傾注することを改めてお約束しつつ、私の新年のご挨拶とさせていただきます。

今年も、何卒宜しくご指導ご協力の程お願い申し上げます。

沈斯淳・駐日代表 二〇一五年元旦祝辞

台北駐日経済文化代表処 沈 斯淳

亜東親善協会の皆様、謹んで新年のお祝いを申し上げます。

新しい年を迎え、台湾と日本の関係が、旧に倍して、友好的で親密であるよう、願っております。

台日間にはさまざまな面において大きな進展がありました。

まず、人的往来の面では、両国間の往来者数は、四〇〇万人の大台を突破することができました。双方の友好感情や信頼感がより一層増して、台日関係はここ四十年余りの間で最良の状態となっております。昨年の十月に、貴会大江会長が一五名の「日本、台湾親善交流」訪問団を率いて台湾を訪問し、馬總統にも晉謁されたことに、心から感謝申し上げます。

文化面では、「台北 国立故宫博物院―神品至宝」展が東京国立博物館と九州国立博物館で開催され、東京では四十万人、九州では二五万人を上回る来場者があり、日本の多くの方々に、台湾が誇る国立故宫博物院の至宝の数々を見ていただくことができました。

引き続き双方の文化交流を推進するため、来年の十月より

台湾の国立故宫博物院南部分院で、東京・九州国立博物館精品展の開催が予定されています。

さらに今年は、いよいよ「台北文化センター」の新施設が東京・虎ノ門にオープンします。ここには、展覧・イベントスペースなども設けられ、新たな台湾文化の発信基地となることが期待されています。

このような文化交流を通して、相互理解がより一段と進むものと確信しております。

経済関係もますます緊密になっており、今年も引き続き産業界の交流を強化していくとともに、「積み上げ」方式で両国の経済・貿易の協力関係の深化を図ってまいる所存です。また、台湾は「環太平洋パートナーシップ協定」(TPP)や「東アジア地域包括的経済連携」(RCEP)など、アジア太平洋における地域経済統合に参加する強い意欲をもっており、引き続き日本の皆様方の支持を期待しております。

最後に、中華民国(台湾)政府及び国民を代表し、台日間の一層の友好増進と皆様のご健康を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

【台北駐日経済文化代表処 二〇一五年元旦】

陳水扁前総統を獄舎に訪ねて

名誉会長 玉澤徳一郎

本年(平成二十六年)五月の連休にかねてからの念願であった台湾の友人前総統の陳水扁さんを訪問することを実行した。現在陳水扁前総統は、台中市にある刑務所におられる。前駐日代表の許世楷先生の御案内をいただき、面会の手続をとっていただき出向いた。

刑務所の前門には、前総統の釈放を求める運動している人々が数人いた。

刑務所の入口の前に立つとテレビ局の人がきて、どういう理由で陳水扁さんに会うのかと聞かれたので、「日本では不遇にいる人に会って励ますことが眞の友情(義理人情)である」と応えた。緊張しながらいよいよ門内に入ってゆくと刑務官の方々が、無言ではあるが、明らかに善意をもって対応していただいていることがわかった。

入ってすぐの広場の一角に一階建ての建物が陳前総統の居室であることがわかった。

入室すると、一つの長いテーブルを囲んで数人の方々と会話談をされていた。陳前総統はそこから立ってこられて、五年ぶりで再会を果たすことができた。感激であった。

集会のグループと離れてソファのあるところで会談した。

前総統は、森喜朗元総理はじめ我々議員一同と、最初の総統選を戦う直前に、東京にこられて歓迎会をしてもらったこ

とにふれた。十三年前のことになるが、あのとき、総統に当選したら必ず東京で再会することを約束したが、それを果たさなく今日にいたっていることを残念に思っていると話された。

そこで、私から森元総理にも伝えるが、自由の身となるのも近いだろうが、そうなれば、いつでも東京においていただき、そこで歓迎会をかつての同志議員の皆さんと盛大にやろうと約束を交した。

私から感謝の意を伝えたのは東日本大震災で多くの中学生、高校生、大学生が街頭に立って救済募金をしていただいたこと、これは陳前総統時代に教科書に、はっきりと今日の台湾があるのは日本時代の社会基盤の実績があることが記載されることによって教育を通じて日本と台湾の絆が生れたことによるものであり、貴方の子供達の善行であること、このことを是非、お礼を申し上げてきたことを話した。すると陳前総統は、そういえばこの前からの議會を占拠して中国との経済協定に反対した学生指導者も、私が総統選のとき小学生であったが台南で旗をふって歓迎してくれた一人でしたと記憶をたぐるようにして話してくれたのが非常に印象的でした。

「天下一人をもって興る」と中野正剛は断言した台湾の存立と自由を守るのは、幾十万の軍にあらず、一人をもって立つ国民の志にありと感じた次第である。ここで二十分の会談は終了し再度、再会を約して獄舎を後にした。

亜東親善協会が台湾留学生と日本の国会議員らとの懇談会を開催

一月一八日、「一般社団法人 亜東親善協会」（以下、亜東親善協会）は、東京地区で学ぶ台湾人留学生組織「中国留日東京同学会」のメンバー二九名との懇談会および国会見学会を行った。

東京・永田町にある参議院議員会館の会議室で開催された同懇談会には、亜東親善協会の大江康弘・会長、副会長の山本順三・参議院議員、鈴木義弘・衆議院議員、鶴保庸介・参議院議員など同協会の会員議員のほか、「公益財団法人 交流協会」の小松道彦・総務部長、台北駐日経済文化代表処（以下、駐日代表処）の林文通・教育部長らが出席し、それぞれあいさつした。

亜東親善協会は六十年以上もの長きにわたり台日間の友好親善のために民間レベルで活動してきた組織であることから、



大江会長は同懇談会のあいさつの中で、「国と国とをしつかりつなぎとめていくのが民間外交である」と述べ、出席者たちが、同協会の関係者らと一緒に友好を続けていくことへ期待の意を表した。山本議員は、日台関係のさらなる強化、台湾の立場が国際社会において、より一層認められるようにしていくことの必要性を強調した。

林・駐日代表処教育部長はあいさつの中で、台湾人留学生たちへの亜東親善協会の交流支援に対し感謝の意を表すと共に、同協会による留学生たちとの親善交流活動を通して「台日間の絆が深まった」と述べた。さらに、「平成二十五年度外国人留学生在籍状況調査」の統計では、台湾人留学生が四、七一九名で、在日留学生の中で四番目に多いことや、台湾人留学生の活躍は評判が良く、学習面でも全力を尽くしているこ



亜東親善協会の大江康弘・会長（写真前列左四）、交流協会の小松道彦・総務部長（同五）、駐日代表処の林文通・教育部長（同三）

となどを紹介した。

懇談会の中では学生たちから、日本の人たちとの交流の機会が少ないことや日本で政治関連の場で働くことのできる機会の有無や、日本で中華民国（台湾）を支持する議員組織について、夫夫婦別姓について、さらには、ちょうどこの日に衆議院の解散が発表されると言われていたことから、議会の解散など日本の政党政治に関連する内容について、質問や意見などが挙げられ、大江会長、各議員、小松総務部長、林文通教育部長らが具体的な例などを挙げて回答したり、所見を述べた。

続いて行われた国会見学では、参議院の議場などを見学し、留学生たちは「普段はテレビでしか見ることのできない場所を実際に見ることができて嬉しい」「歴史の重みを感じた」など感想を語った。

（台湾週報より転載）



あいさつする林文通・駐日代表処教育部長

平成二十六年研修会並びに懇親の集い

二月四日夜、「一般社団法人 亜東親善協会」（以下、亜東親善協会）は都内で研修会・懇親会を開いた。当日は同協会の大江康弘・会長および各会員をはじめ、東京地区で学ぶ台湾人留学生組織「中華民国留日東京同学会」のメンバー、「公益財団法人交流協会」（以下、交流協会）の小松道彦・総務部長、台北駐日経済文化代表処（以下、駐日代表処）からも徐瑞湖・副代表および関係者らが多数出席した。

亜東親善協会の大江会長は懇親会のあいさつの中で、「外交というものは、その基本が民間外交である。そういった民間外交の日々の積み重ねが二国間関係の大きな力となっている。我々も改めて原点に立ち戻り、歴史と伝統ある亜東親善協会の会員各位の力



徐瑞湖・駐日副代表

を借りながら、このすそ野をさらに広げ、活動を続けていきたい」と述べた。

徐・駐日副代表はあいさつの冒頭で台湾の選挙結果について説明した後、今年一年を振り返り、中華民国（台湾）と日本との関係がいかに密接であるかについて、三つの実例を挙げて紹介した。

その一つとして、「人的往来」を挙げ、昨年台日双方間の往来数は三七六万人だったが、今年は十月末時点ですでに三八四万人に達していることから、「今年は四五〇万人突破も夢ではない」と期待の意を表した。二つめとして挙げた「文化交流」については、今年、「国立故宫博物院―神品至宝」展が東京と九州で開催され、参観者は合計で六五万人に達し、同展では門外不出であった「翠玉白菜」および「肉形石」



大江康弘・亜東親善協会会長

も二週間、特別展示されたと強調した。

三つ目には、台湾と日本との関係強化を目的として超党派の国会議員で組織されている「日華議員懇談会」の会員数が二九五名となったことを挙げ、「これは外国との友好議員連盟の中で会員数が最も多い」と説明した。

交流協会の小松・総務部長も、今年の台日間の密接な関係を示す大きな出来事として、台湾観光協会の「台日同名三三三駅観光プロモーション」で選ばれた三三三駅と同じ名前の日本人が台湾に招かれ、同名駅で一日局長をしたことを挙げ、「このようなイベントは日台間でしかできないこと」と強調した。もう一つは戦前、台湾の嘉義農林の野球チームが甲子園に出場し、準優勝した実話を描いた映画「KANON」が来年一月末から日本各地で上映されることも紹介し、「来年の年明けから日台の友好がこの映画によりさらに盛り上がるよう期待している」とあいさつした。

この日の懇親会は忘年会も兼ねていることから、一年の労をねぎらい、来る年の台日友好関係のさらなる強化を願う、和やかな親睦の会となった。

《二〇一四年一月五日》

(台湾週報より転載)

平成二十六年台湾訪問の旅に参加して

水越 隆信

私は二〇一四年に新入生会員として亜東親善協会に入会、台湾訪問団の一員として参加するのは二度目です。前回は玉澤名誉会長を団長の訪問団で、東北大震災の義援金の御礼参りに、台湾の南から北へと台湾の皆さんを統括する関係先を訪問に同行しました。

平成二十六年台湾訪問で民間外交の主旨に賛同して参加させていただきました。

十月二十三日(木)に羽田より松山空港に向い到着後、その足で中国信託銀行に向いました。なぜ此の方へ訪ねるか理由が分かりませんでした。しかも超近代的な建物に戸惑いを感じました。案内されるままに入室し、清水さんに誘われて賀詞交換会等に、又八田与一物語を一竜斎貞花の講談をうかがい、又日本がかつて台湾に、いかように日本人と台湾人と共に狭い国土の拡張に、それが災害を防ぎ農産物の増量に關与して実績として多くの台湾の方々が八田与一について語りつがれ、清水さんが仕事で渡台しており台湾の青少年向けの雑誌『少年ジャンプ』に八田与一さんを啓蒙している事を聞いていました。

しばらくして大柄な方が入室して来られ、私の印象は『アレ』見た事の有る方と思いました。元台北駐日経済文化代表處代表馮寄台閣下でした。元代表閣下が離日する前に

二〇一二年四月十九日に園遊会に外務省より招待される旨の連絡をいただき、早速台湾に居る家内に出席の意向を問うたら、参加するとの返事をお願い、断交の国の代表として、天皇陛下にお会いする荣誉にあずかりました。当日指定された場所に一時間程前に立ち、陛下の通られるのを待ちました。その間後ろ側でエビスビールを飲みながら焼き鳥等の匂いをかきながら陛下をお待ちしておりました。陛下が私の前で胸元をのぞき込まれる様に名札を確認しておられる内、今日の東北大地震の折に台湾の皆様の多額な義援金を贈られた事に感謝の意を表明された。そして家内に対して美智子皇后が親しく英語で話されました。わずかな時の流れで有りましたが私は身が震える程感激しました。家内も同様です。その話を伺った訪問団の一行は天皇



が謝意をのべられた事に、一行の中に涙ぐむ方もおられました。国家のシンボルで有る天皇が台湾の方々代表閣下を通して謝意をのべられた事について、我々一行は天皇陛下、ありがとうございますと思いましたと心から思いました。

その後馮寄台閣下の紹介では是非、台北賓館を訪問する様にと手続を取ってくれました。二十四日に台北賓館を訪れ台湾との関係が益々深くなる様感じました。この場所は、かつて昭和天皇も訪れた場所でも有ります。台北賓館訪問後、馬英九総統を訪問し訪問団員一人一人握手する場面も有りました。その晩、前駐日代表処に於られたジャズピアニスト趙雲華さんに会いました。二十五日離台する午前中に新竹宝山ゴルフ場で昼食に招待され、帰国の途につきました。写真は産経新聞の好意により提供されました。



平成二十七年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>衆議院議員</p> <p>古屋 圭司</p> <p>千代田区永田町二―一―二 衆議院第二議員会館四二三 電話〇三(三五〇八)七四四〇</p>	<p>自由民主党国会対策委員会副委員長 衆議院議院運営委員会理事 衆議院議員</p> <p>伊東 良孝</p>	<p>公益財団法人交流協会</p> <p>理事長 今井 正</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處</p> <p>代表 沈 斯淳</p>
<p>台北駐大阪經濟文化辦事處</p> <p>處長 蔡 明耀</p> <p>大阪市西区土佐堀一―四―八 日栄ビル四階 電話〇六(六四四三)八四八一</p>	<p>衆議院議員</p> <p>前原 誠司</p> <p>東京都千代田区永田町二―一―一 衆議院第一議員会館八〇九号室 電話〇三(三五〇八)七七一 FAX〇三(三五〇八)六六九六</p>	<p>衆議院議員</p> <p>金子 恭之_{やすし}</p> <p>東京都千代田区永田町二―一―二 衆議院第二議員会館四一〇号室 電話〇三(三五〇八)七四一〇</p>	<p>衆議院議員</p> <p>井上 信治</p> <p>東京都千代田区永田町二―一―一 衆議院第一議員会館三二七号室 電話〇三(三五〇八)七三二八</p>
<p>台北駐日經濟文化代表處</p> <p>札幌分處</p> <p>處長 陳 桎宏</p> <p>札幌市中央区北四条四丁目一番地 伊藤ビル五階 電話〇一一(二二二)二九三〇</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處</p> <p>那覇分處</p> <p>處長 蘇 啓誠</p> <p>那覇市久茂地三―一五―九 アルテビル那覇六階 電話〇九八(八六二二)七〇〇八</p>	<p>台北駐大阪經濟文化辦事處</p> <p>福岡分處</p> <p>處長 戎 義俊</p> <p>福岡市中央区桜坂三―二―四二 電話〇九二(七三四)二八一〇</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處</p> <p>横浜分處</p> <p>處長 粘 信士</p> <p>横浜市中区日本大通り六〇 朝日生命横浜ビル二階 電話〇四五(六四一)七七三七</p>

平成二十七年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>株式会社ヒューマックス 代表取締役 林 瑞祥</p> <p>東京都新宿区西新宿三二〇二一 東京オペラシティタワー二二階 電話〇三(三三三)七九八〇三三 FAX〇三(三三三)七九八〇三三</p>	<p>横濱中華學院 校長 馮 彦國</p> <p>横濱市中区山下町一四二番地 電話〇四五(六八一)三六〇八 FAX〇四五(六七一)一〇七〇</p>	<p>日本中華聯合總會 會長 毛利 友次</p> <p>東京都江東区亀戸九一六一九一二F 電話〇三(五八三)六五六〇 FAX〇三(五八三)六五三六</p>	<p>一般財団法人台湾協会 理事長 根井 洌</p>
<p>株式会社和興産業 代表取締役 千葉 祐三</p> <p>東京都文京区千石三一一四一八 サンセチア文京四〇二 電話〇三(三三九)四一〇〇二八 FAX〇三(三三九)四一七〇三九</p>	<p>金沢市日台親善議員連盟 會長 安達 前</p> <p>金沢市馬替二丁一九〇一六 電話〇七六(二九八)三五〇三 FAX〇七六(二九六)一六六八</p>	<p>有限会社沖山興業 代表取締役 沖山 建夫</p> <p>東京都八丈島八丈町三根一八一一五 電話〇四九九六(二)〇一〇一五</p>	<p>中華民國留日横濱華僑總會 會長 施 梨鵬 理監事一同</p> <p>神奈川県横濱市中区山下町一四〇番地 電話〇四五(六八一)二二一四 FAX〇四五(二〇一)二八五五</p>
<p> 台湾観光協会東京事務所 所長 江 明清</p> <p>東京都港区西新橋一五一一八 川手ビル三階 電話〇三(三五〇)一三五九一</p>	<p>アジア問題懇話会 大陸問題研究協会 會長 高野 邦彦</p>	<p>チャイナエアライン 日本支社長 石 炳煌</p> <p>東京都千代田区内幸町一〇二一 日土地内幸町ビル八階 電話〇三(六三七)八八五五</p>	<p>チャイナエアラインズグループ (株)ダイナスティ ホリデー 代表取締役社長 國廣 傑</p> <p>東京都中央区銀座一〇九一七 陽栄銀座第二ビル五階 電話〇三(五五二)四〇八八〇</p>

平成二十七年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>有後藤泌尿器科皮膚科医院 院長 後藤 康文 岩手県宮古市大道一三二二四 電話〇一九(六二)三六三〇</p>	<p>学校法人東京国際学園 東京外語専門学校 理事長 武田 哲一 東京都新宿区西新宿七三三十八 電話〇三(三三三六)一一〇三三</p>	<p>株式会社ホテル横須賀 代表取締役 長尾 和典 横須賀市米が浜通り二一七 電話〇四六(八二五)一一一一 FAX〇四六(八二五)一一一一</p>	<p>友盛株貿易株式会社 代表取締役社長 鄭 尊仁 横浜市中区太田町二二二二一 電話〇四五(一一六)一一九八 FAX〇四五(一一六)一一八九</p>
<p>有限会社台湾新聞社 代表取締役 劉 姿伶 東京都豊島区西池袋四一九一四 電話〇三(五九一七)〇〇四五 FAX〇三(五九一七)〇六八六</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 会長 大江 康弘 東京都中央区銀座六一三一一六 ウォールビル五〇五 電話〇三(六二七八)八六九〇 FAX〇三(六二七八)八三三〇</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 副会長 張 碧華 東京都千代田区外神田三一七一一 電話〇三(三二五七)〇〇三二</p>	<p>自由民主党総務会長代理 政府開発援助等に関する特別委員長 参議院議員 山本 順三 東京都千代田区永田町二一一一 参議院議員会館一〇一九号室 電話〇三(六五〇)一〇一九</p>
<p>一般社団法人亜東親善協会 専務理事 崎谷 秀彦</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 業務執行理事 赤松 則宏</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 理事 程 金笙</p>	<p>あざみ野ロウンテニスクラブ 代表 益山 茂 横浜市青葉区あざみ野二一九一一 電話〇四五(九〇一)九〇一一 FAX〇四五(九〇一)二〇四一</p>

平成二十七年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>一般社団法人亜東親善協会 理事 伊野 雅晴</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 理事 呉 淑娥</p>	<p>学校法人電子学園 日本電子専門学校 理事長 多 忠和 おのおの ただかず</p>	<p>元内閣府大臣政務官・(元衆議院議員) 一般社団法人亜東親善協会 理事 並木 正芳 埼玉県所沢市泉町一七九三―一三 電話〇四(二九二四)八〇五〇 維新の党衆議院埼玉第八支部</p>
	<p>株式会社永島製作所 代表取締役 永島 剛士 石川県羽咋市寺家町タ一番九 電話〇七六七(一一)七〇一一 FAX〇七六七(一一)七〇一一</p>	<p>東光不動産株式会社 代表取締役 山口 裕志 東京都渋谷区富ヶ谷二―一―五 電話〇三(五七九〇)五七九〇 FAX〇三(五七九〇)五七九〇</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 理事 柴田 徳文</p>

季刊 亜 東 (アジアの架け橋) 平成27年 新春号 (No.52)

発行日 : 平成27年1月15日

発行所 : 一般社団法人亜東親善協会

編集 : 崎谷秀彦

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

台湾の魅力を、あなたにも。 チャイナ エアライン



チャイナ エアラインで、台湾の旅へ。

台北101や日月潭、阿里山など、見どころにあふれた台湾。

日本から飛ぶなら、チャイナ エアラインで。行き届いたサービス、快適なひととき…。

台湾を訪れるあなたを、心を込めたおもてなしで歓迎いたします。